

令和元年度
国指定天売島鳥獣保護区における
ケイマフリ等海鳥調査

報告書

令和2年3月

環境省北海道地方環境事務所

Report of Spectacled Guillemots and Other Seabirds in Wildlife Reserve, Teuri Island, 2019

Ministry of the Environment,
Hokkaido Regional Environment Office

March 2020

Suggested Citation: Ministry of the Environment, Hokkaido Regional Environment Office
(2020) The Report of Spectacle Guillemot and other seabirds in wildlife reserve on Teuri
Island, 2019. Hokkaido Regional Environment Office, Sapporo.

はじめに

ケイマフリ *Cepphus carbo* はオホーツク海沿岸，ロシア，北朝鮮，韓国の日本海沿岸で繁殖する (Gaston & Jones 1998)。国内では北海道と東北地方の一部で繁殖していたが，近年東北地方では一部を除いて確認されなくなった。北海道でも生息数は減少傾向にあり，環境省レッドリスト 2019 で絶滅危惧Ⅱ類に指定されている。

本調査の対象地域である天売島は，北海道北西部の海岸から 28km ほど沖合の海上に位置し，ケイマフリの国内最大の繁殖地となっている。1963 年には推定 3000 羽だったが，1990 年代に入ると約 150 羽に激減した。北海道希少海鳥類保護計画 (1999、北海道) では，天売島のケイマフリの繁殖地の消失を懸念して，繁殖地の位置および繁殖数のモニタリングを行い，保護措置により繁殖数を増加させる必要性を提言している。しかし，岩の隙間で繁殖するケイマフリは調査が難しいため，これまで繁殖生態の詳細はほとんど明らかになっていない。

環境省では，平成 15 年度から，減少傾向にある天売島のケイマフリについて，国指定天売島鳥獣保護区の管理の一環として，飛来数や繁殖調査など天売島海鳥研究室等の協力を得て実施してきた。平成 21 年度からは調査回数が増え，平成 25 年度と平成 26 年度にはケイマフリが繁殖している赤岩から観音崎にかけての海鳥繁殖地の断崖全域で網羅的に繁殖巣の分布調査が行われた。

本報告では，令和元年度に実施したケイマフリの保護対策を検討する上で欠かせない個体数調査と繁殖調査をまとめた。また，天売島海鳥研究室が実施した天売島で繁殖する海鳥 (ウトウ，ウミネコ，オオセグロカモメ，ウミウ，ヒメウ) の生息数および繁殖巣数の調査結果や，北海道海鳥センター友の会が実施したウミスズメの個体数調査の結果も併せて報告する。

本業務を実施するに当たって調査にご協力いただいた萬谷良佳氏，天売島での調査を実施するにあたって便宜を図っていただいた青塚松寿氏，天売海鳥研究室など関係機関，関係者各位に厚く御礼申し上げます。

目 次

Summary	1
要 約	2
1. ケイマフリ	3
2. ウミスズメ	9
3. ウミウ・ヒメウ・オオセグロカモメ・ウミネコ・ウトウ	10
4. 引用文献	11

Summary

The largest colony of Spectacled Guillemots *Cepphus Carbo* in Japan is on Teuri Island. We counted the numbers of Spectacled Guillemots on the sea around the colony from April to September 2019. And we conducted a survey for understanding the breeding status. The maximum numbers was 546 individuals at the end of July during the fledging period in 2019. The breeding population size has gradually increased from 2004, and has fluctuated from 409 to 682 individuals during these five years. We detected 62 breeding nests during the breeding season of 2019 by observation for parenta Spectacled I Guillemots, which delivered food to their nestlings into their nests on the cliff.

Teuri Seabird Research Station (unpublished data) collected information about other seabird species, which breed on Teuri Island in 2019, including Japanese Cormorants *Phalacrocorax filamentosus* (estimated numbers of nests 277), Pelagic Cormorants *P. pelagicus* (estimated numbers of nests 98), Slaty-backed Gulls *Larus schistisagus* (estimated number of nests 327), and Black-tailed Gulls *L. crassirostris* (estimated number of nests 2616).

要 約

日本最大のケイマフリ *Cephus Carbo* の繁殖地として知られている天売島において、2019年4月から9月まで、沿岸海域に生息するケイマフリの個体数調査および繁殖状況調査を実施した。その結果、巣立ち時期の7月中旬に、2019年の最大数となる546個体が観察された。天売島におけるケイマフリの繁殖個体群は2004年以降、徐々に増加しており2015～2019年の5年間の各年の最大数は409個体から682個体の間で変動している。また、繁殖期に親が餌をくわえて巣に戻る行動を観察することによって、34ヵ所のケイマフリの巣を特定した。

天売海鳥研究室は、2019年の繁殖期に陸上もしくは海上から、ウミウ *Phalacrocorax filamentosus*, ヒメウ *P. pelagicus*, オオセグロカモメ *Larus schistisagus*, ウミネコ *L. crassirostris* を観察し、総営巣数を推定した。総営巣数はウミウ推定277巣、ヒメウ98巣、オオセグロカモメ推定327巣、ウミネコ推定2616巣であった（天売海鳥研究室、未発表データ）。

1. ケイマフリ

目 的

環境省レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類のケイマフリ *Cepphus carbo* は、アジア極東域に限定して分布するウミスズメ科の海鳥で、ロシアのオホーツク海・日本海沿岸、北朝鮮の日本海側、国内では北海道・東北の沿岸や離島で繁殖する（日本鳥学会 2012; 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室 2014; Senzaki et al. 2015）。天売島は本種の国内最大の繁殖地である（Osa & Watanuki 2002; Senzaki et al. 2015）。天売島沿岸の海上で見られるケイマフリの個体数は季節変動が大きく、4月に最大となり、5月下旬から6月にかけて最少となり、7月に再度増えるという凹型の傾向を示す（長谷部ら 2015）。調査方法が不明で経年変化の比較に利用できないが、天売島では 1949 年に 7,000 羽（Austin & Kuroda 1953）、1963 年に 3,000 羽（黒田 1963）が記録されている。経年変化を評価するために季節変動を考慮して推定した年最大個体数は、1985–1995 年にかけて 1 年間で 9.6% 減少し、2004–2014 年にかけては 1 年間で 9.7% 増加している（長谷部ら 2015）。2017 年には過去 14 年間で最多となる 682 羽が記録されたが、推定個体数が 800 羽を超えていた 1985 年の個体数までは回復していない。

本報告では、2019 年の天売島におけるケイマフリの個体数および繁殖状況について報告する。

個体数調査

調査方法

ケイマフリの繁殖地を 11 区画に分け陸上 6 地点から調査を行った（図 1）。産卵前の 4 月から繁殖が終了した 8 月まで、波の穏やかな日を選んで合計 8 回、双眼鏡（EL8.5×42 SWAROVISION）とコーワのスポッティングスコープ（アイピース×20–60 を使用）を用いて、海上に浮いている個体を調査区画ごとに陸上から数えた。ケイマフリのカウントは、一日の中で最も多く個体が沿岸海域で活動する 7 時から 9 時に実施した（北海道地方環境事務所 2016）。

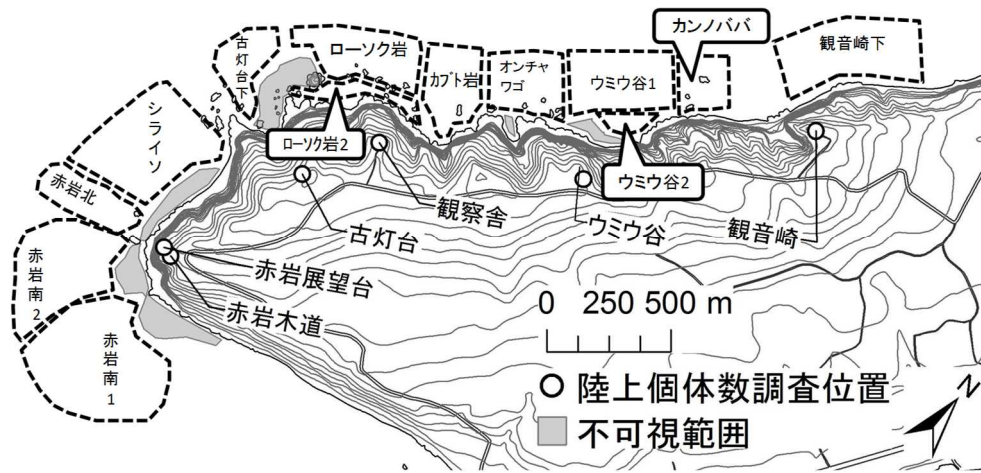


図1. 陸上に6カ所設置した調査地点（白丸）から海上のケイマフリの個体数を数えた。破線で囲まれた区画が調査範囲で、灰色部分は陸上の調査地点から見えない範囲。

結果と考察

2019年にカウントされたケイマフリの個体数は、7月15日の546個体が最大であった。また4月中旬には532個体と同程度の個体数を確認することができた。5月下旬には一時減少し、6月下旬に再度増えた（表1, 図2）。例年、産卵期にあたる4月に出現する個体数が最大になる（長谷部ほか2015）と報告されていることから、海上でカウントされた個体数が5月中旬から6月中旬の間減少したように見えるのは、抱卵期や巣内育雛期に片親が巣内に留まる時間が長くなったためだと考えられる。また、7月に見かけ上の個体数が増加したのは、雛が巣立った後に、成鳥や巣立ち雛が海上で活動するようになったためだと考えられる。9月2日には天売島近海でケイマフリの姿がまったくみられないようになったことから、ケイマフリは越冬のために天売島近海から移動したと考えられた。このような天売島沿岸の海上で見られるケイマフリの個体数の季節変化は、長谷部ほか（2015）が報告しているパターンと同様だった。

2019年の年最大個体数は2018年と比較し137個体多く確認することができた。近年は増減を繰り返しながら徐々に個体数が増加してきているため、経年変化を把握するためにも今後も継続的に個体数調査を行っていく必要があると考えられる。（図3）。

表1. 陸上の調査地点から海上のケイマフリの個体数をカウントした結果。

回	調査年月日	開始時刻	終了時刻	赤岩南1	赤岩南2	赤岩北	シライソ	古灯台下	ローソク岩	カト岩	オンチャワゴ	ウミウ谷	カンノババ	観音崎下	合計
1	2019/4/26	7:20	8:18	44	117	52	116	76	110	0	2	11	4	0	532
2	2019/5/13	7:05	8:05	53	32	25	56	34	112	89	0	2	2	2	407
3	2019/5/27	7:30	8:50	18	14	1	34	38	14	116	1	33	0	0	269
4	2019/6/7	7:10	8:37	16	2	10	6	-	0	-	-	0	-	-	34
5	2019/6/21	7:18	8:32	12	1	17	139	8	58	96	29	17	4	1	382
6	2019/6/30	7:00	8:15	77	36	22	66	57	10	103	17	60	22	0	470
7	2019/7/15	7:25	8:25	78	32	28	90	41	70	80	13	56	39	19	546
8	2019/8/6	7:10	8:40	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1

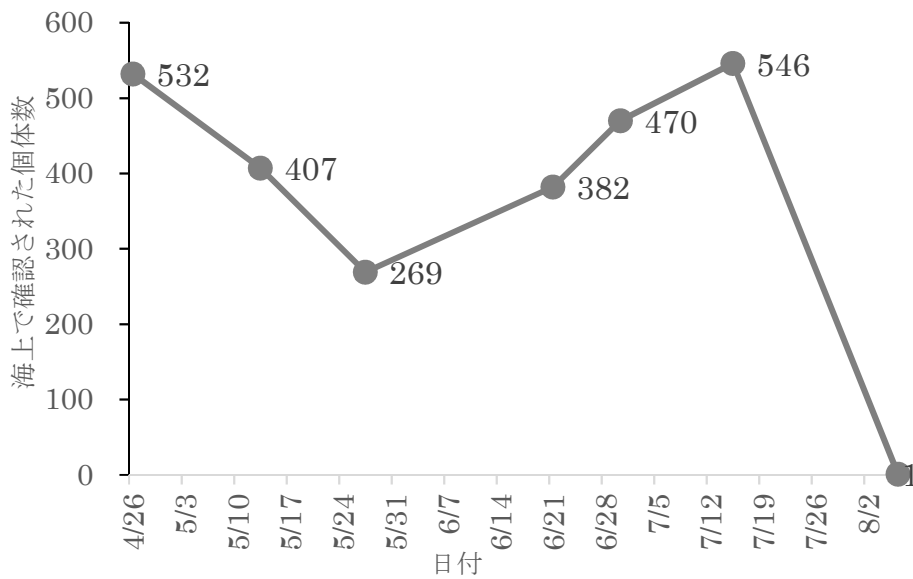


図 2. 2019 年に天売島の沿岸海域でカウントされたケイマフリの個体数の季節変化.

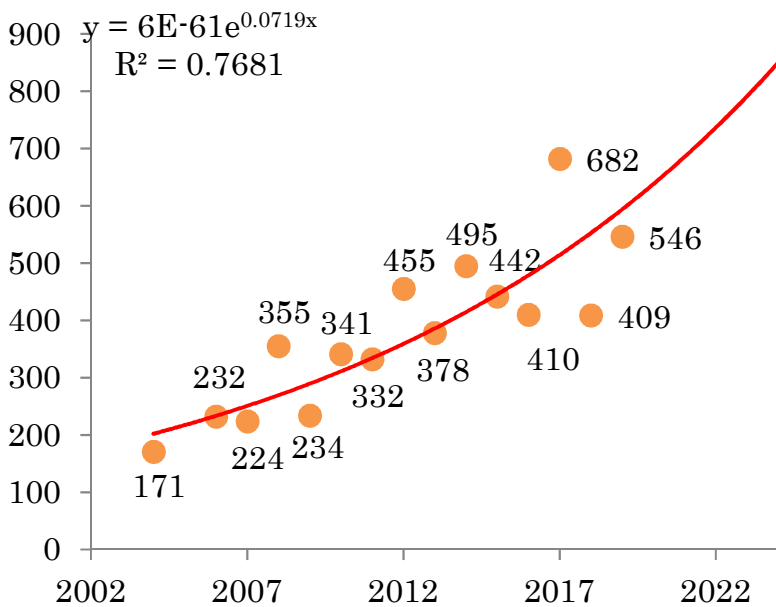


図 3. 天売島のケイマフリの年最大個体数. 黒丸は実測値 (2015 年の巣立ち期の個体数を除き, 2004-2018 年は産卵期前の個体数), 長谷部ほか (2015) から改変. 赤線は近似曲線を示す.

繁殖状況の調査

調査方法

ケイマフリが繁殖している海鳥繁殖地の全 12 区画のうち、主要な繁殖場所であり、徒歩で行くことのできる 4 区画と島の北西側の主要な繁殖地 1 区画の計 5 区画（区画 1, 2, 3, 4, 8）で、育雛期にあたる 2018 年 6 月, 7 月に営巣場所調査を実施した（図 4）。合計 6 ヶ所の調査地点（1b, 1d, 2, 3, 4, 8）から、ヒナの餌となる魚をくわえて岩の隙間に戻ってくる成鳥の行動を直接観察して、繁殖場所を特定した。

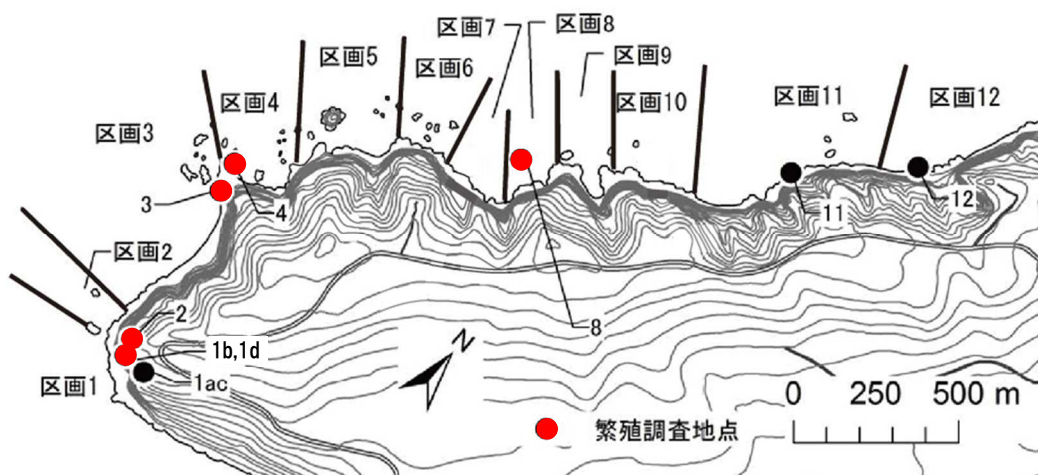


図 4. ケイマフリの繁殖巣調査の位置図。

餌運び行動および巣に入る行動に基づいて、ケイマフリの繁殖状況を判断した（表 2, 図 5）。調査時は見逃しがないように、餌を持って巣に帰ってくる個体の観察を優先した。巣の位置を正確に記録するため、繁殖地の全景と餌持ち個体の巣の位置の拡大写真を撮影し、繁殖している巣の詳細な位置を拡大写真に記録した。

表 2. ケイマフリの行動等から読み取る繁殖状況の判断基準。

番号	ケイマフリの行動	巣穴入口の目視	繁殖状況
1	餌を持ったまま岩の隙間に入る	*○	巣内育雛期の巣
2	餌を持ったまま岩陰に消える	×	巣内育雛期の巣
3	何も持たずに岩の隙間へ入る	*○	繁殖ステージ不明の巣

*草陰や岩陰で数 m 以内で巣の場所が明らかな場合も含む

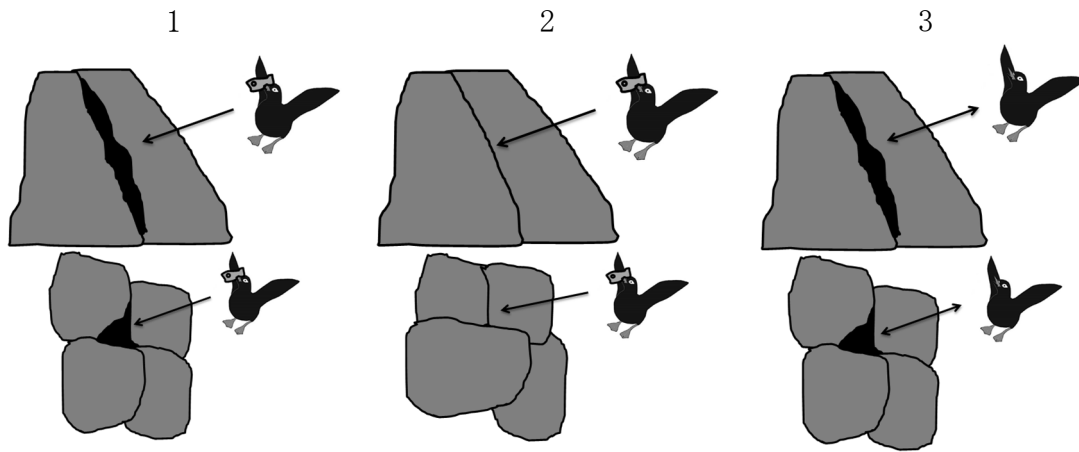


図5. ケイマフリの繁殖に関わる行動の模式図。1は餌を持ったまま岩の隙間に入る場合、2は餌を持ったまま岩陰に消える場合（ただし、草陰や岩陰で数m以内で巣の場所が明らかな場合は1とする）、3は何もくわえずに岩の隙間に入る場合（表2参照）。

結果と考察

2019年の繁殖期における営巣場所調査では、1から4、8区画において合計62巣が確認された。

このうち育雛期の親の餌運びによって特定した営巣場所が42巣（餌をくわえたまま岩の隙間に入った、もしくは岩陰に消えた）、餌をくわえていない成鳥が海上から飛来して岩の隙間に入り込んだことで特定した営巣場所が20巣あった。2018年の繁殖期における営巣場所調査では、育雛期の親の餌運びによって特定した営巣場所が38巣、餌をくわえていない成鳥が海上から飛来して岩の隙間に入り込んだことで特定した営巣場所が27巣であった。

このことより、2019年の営巣数が62巣で、2018年の営巣数よりも3巣少なかったことが確認された。

2013年と2014年には、ケイマフリが繁殖している赤岩から観音崎にかけての海鳥繁殖地の断崖全域で網羅的に繁殖巣調査が行われた（表4、北海道地方環境事務所2014；2015）。繁殖地全域からみつけたケイマフリの巣の数は、それぞれの年に海上でカウントされた最大個体数のそれぞれ32.5%（2013年）と34.6%（2014年）だったことから（長谷部ほか2015）、最大546個体が記録された2019年には繁殖地全域で少なくとも178～189巣程度あった可能性がある。

2019年は、全12区画から主要な区画を4区画選出し、さらに8区画目も調査を行ったが今後も安定的にデータを得るためには2020年も2019年と同様に、主要な繁殖場所を選出し継続して調査を行うことが重要だと思われる。

2018年のケイマフリの営巣数

繁殖ステージ	区画					合計
	1	2	3	4	8	
育雛期	9	3	6	6	14	38
不明	2	5	7	4	9	27
合計	11	8	13	10	23	65

2019年のケイマフリの営巣数

繁殖ステージ	区画					合計
	1	2	3	4	8	
育雛期	11	0	16	6	9	42
不明	4	2	3	2	9	20
合計	15	2	19	8	18	62

表3. 天売島の海鳥繁殖地の各区画で確認された2018年、2019年のケイマフリの営巣数。
2018年のデータは比較のために環境省北海道地方環境事務所(2018)より再掲

表4. 天売島におけるケイマフリの巣数 (1981-2019)

年	①餌持ち個体の巣穴への餌運び	②餌持ち個体の岩陰への出入り	③その他	調査範囲	文献
1981	20			屏風岩周辺	Thoresen 1984.
1985	4		64	繁殖地の1/2	綿貫他 1986.
1994	23			赤岩-観音崎	福田ほか 1995.
1995		71		赤岩-観音崎	福田 1995
2003	25	0	23	赤岩-観音崎	北海道海鳥センター2004.
2004	12	3	26	赤岩-観音手前	北海道地方環境事務所未発表
2006	23	8	19	赤岩-観音崎	北海道地方環境事務所 2010.
2009	5	10	18	赤岩-観音崎	北海道地方環境事務所 2010.
2010	8	27	29	赤岩-観音崎	北海道地方環境事務所 2011.
2011	74	15	59	赤岩-観音崎	北海道地方環境事務所 2012
2012	97	4	3	赤岩-観音崎	北海道地方環境事務所 2013
2013	118	5	0	赤岩-観音崎	北海道地方環境事務所 2014
2014	169	2	0	赤岩-観音崎	北海道地方環境事務所 2015
2015	21	4	0	赤岩-観音崎	北海道地方環境事務所 2016
2016	49	4	0	赤岩-観音崎	北海道地方環境事務所 2017
2017	43	7	0	赤岩-シライソ	北海道地方環境事務所 2018
2018	38	18	0	赤岩-カブト岩	北海道地方環境事務所 2019
2019	34	8	20	赤岩-カブト岩	本報告書

注) 過去の調査範囲や調査に費やした時間、人員数はそれぞれ異なる。

また、同じ表記の調査範囲であっても、調査を行った区画数は異なる場合がある。

2. ウミスズメ

ウミスズメは環境省レッドデータブックで絶滅危惧 I A 類に選定されており、国内で報告されている繁殖地は現在天売島のみである。天売島では夜間にのみ崖の隙間にある繁殖地に現れるので、調査は難しい。2018 年は北海道海鳥センター友の会が前田一步園財団の助成を受け、海鳥繁殖地の海岸線から 300m 沖と 600m に設定した航路でスポットライトセンサスを同じ手法を用いて実施した。2019 年は天候不良および海況悪化により調査を中断したため、スポットライトセンサスを実施することができなかった。

2016 年は 266 羽が確認され、2018 年は 249 羽を確認することができた（表 5）。ただし、海上での夜間のウミスズメのカウント数は、調査した時間帯の月明かりや波の状況に影響されると考えられることから、今後も継続的に調査を行っていく必要があると考えられる。

表 5. 天売島における過去のウミスズメの繁殖状況

年	繁殖状況	確認場所	確認日	文献
		古灯台南方斜		
1957	推定 500 羽	面	1958/6/16-17	村田 1958
1957	死体 1	赤岩崖下	1958/5/21	村田 1958
1957	卵 2	赤岩基部	1958/5/21	村田 1958
		古灯台南方斜		
1957	抱卵	面	1958/6/17	村田 1958
1963	繁殖する	赤岩崖下東	—	黒田 1963
1981	卵殻	—	—	綿貫ほか 1986
1982	ヒナ	—	—	綿貫ほか 1986
1983	ヒナ	—	—	綿貫ほか 1986
1984	成鳥の死体	—	—	綿貫ほか 1986
1987	推定 100 つがい	—	—	綿貫ほか 1988
			3 巣の孵化	
1987	14 巣	赤岩対崖上部	(5 月 25 - 6 月 5 日の間)	綿貫ほか 1988
1994	卵殻	赤岩対崖	—	福田ほか 1995
1994	卵殻	赤岩展望台北 オンチャワゴ	—	福田ほか 1995
2008	成鳥死体 1	周辺	—	平田和彦 未発表
2012	208 羽* 巣立ち雛 1 羽	赤岩周辺ほか	2012 年 6 月	長谷部・大槻 2012
2013	181 羽* 2 巣	赤岩周辺ほか	2013 年 5-6 月	長谷部ほか 2013
2014	161 羽* 3 巣, 巣立ち雛 10 羽	赤岩周辺ほか	2015 年 4-7 月	長谷部ほか未発表
2015	299 羽*	赤岩周辺ほか	2015 年 6-7 月	松井ほか未発表
2016	266 羽* 巣立ち雛 8 羽	赤岩周辺ほか	2016 年 6 月	松井ほか未発表
2018	249 羽*	赤岩周辺	2018 年 6 月	岩原ほか未発表

* 同じ日に実施した 300m 沖と 600m 沖の航路のスポットライトセンサスの合計個体数の最大数。

注) 過去の調査範囲や調査に費やした時間、人員数はそれぞれ異なる。

また、同じ表記の調査範囲であっても、調査を行った区画数は異なる場合がある。

3. ウミウ・ヒメウ・オオセグロカモメ・ウミネコ・ウトウ

天売海鳥研究室の調査により、2017年の繁殖期に陸上と海岸からのウミウ *Phalacrocorax filamentosus*, ヒメウ *P. pelagicus*, オオセグロカモメ *Larus schistisagus* 及びウミネコ *L. crassirostris* の観察により、各種の総営巣数が推定された。総営巣数はウミネコ 2616 巣、オオセグロカモメ 327 巣、ウミウ 277 巣、ヒメウ 98 巣、と推定された（天売海鳥研究室、未発表データ）。

1979年より天売海鳥研究室が中心となって、ウミウ、ヒメウ、オオセグロカモメ、ウミネコ、ウトウ *Cerorhinca monocerata* の繁殖数調査を行っており、これまでの調査結果を表6に示した。

表6. 1954-2017の海鳥6種の繁殖状況。1954年の記録は村田英二（私信）、1963年の記録は（黒田（1963））、1979-2017年の記録は天売海鳥研究室（未発表）、2016年のウトウの記録は生物多様性センター（2017）、ウミスズメの記録は環境省北海道地方環境事務所(2018)を参照した。

*巣数, ** 推定個体数

年	ウミネコ	オオセグロカモメ		ウミウ	ヒメウ	ウトウ	ウミスズメ
	推定巣数	推定巣数	個体数	推定巣数	巣数	推定巣数	推定羽数
1954		1*	5				
1957							500**
1963	50,000		100**	100**		100,000**	
1979	23,274	130					
1980	24,077	163		483			
1981	20,867	230					
1982							
1983							
1984	24,170	320		500	9		
1985	29,466	414		545	13	188,000	
1986							
1987	30,180	518		738			200**
1988							
1989							
1990							
1991		556					
1992	18,400	696		903	8		
1993	9,458	854		1,152	18		
1994	13,000	908		1,305	12	262,000	
1995	14,000	917		1,315	8		
1996	8,150	1,184		1,368	4+		
1997	6,674	900		1,315	26	291,000	
1998	12,060	834		1,514	5+		
1999	12,506	1,024		1,056	21		
2000	7,827	660	NA	1,276	27		
2001	6,920	1,168	NA	1,133	12		
2002	10,131	834	NA	1,512	8+		
2003	6,674	1,046	NA	1,621	34		
2004	2,993	769	NA	1,012	29		
2005	3,467	660	1,085	747			
2006	6,399	931	1,656	1,450	23	286,077	
2007	6,030	646	1,052	1,019	39		
2008	3,962	1,035	1,450	1,206	49		
2009	2,416	473	701	708	49		
2010	2,823	270	582	149	30		
2011	3,586	192	1,110	219	49	415,441	
2012	1,492	317	966	649	50		208
2013	998	267	NA	316	40		181
2014	693	153	372	305	53		161
2015	572	184	528	517	7+		299
2016	802	492	600	521	44	379,195	266
2017	1,144	442	NA	287	64		
2018	2,013	339	NA	315	90		249
2019	2,616	327	679	277	98		

4. 引用文献

- Austin OL & Kuroda N (1953) The Birds of Japan. Bull. Mus. Comp. Zool. Harvard 109:448-452.
- 福田佳弘 (1995) 天売島におけるケイマフリの繁殖分布. 小野宏治(編)希少ウミスズメ類の現状と保護 I - 航路調査報告およびウミスズメ類繁殖地仮目録-. 日本ウミスズメ類研究会、船橋市.
- 福田佳弘・綿貫豊・加藤明子・林英子・寺沢孝毅 (1995) 海鳥 (ウミガラス、ウトウを除く) の個体数及び営巣場所の変化. 北海道環境科学研究センター(編), ウミガラス等海鳥群集生息実態調査報告書 1992-1994: 16-22.
- 長谷部真・大槻都子 (2012) 天売島におけるウミスズメの個体数と繁殖記録. 日本鳥学会 2012 年大会 (100 周年記念大会) 講演要旨集: 85. 日本鳥学会, 東京.
- 長谷部真・Darrell Whitworth・大槻都子・菊地デイル万次郎・渡辺順也・佐藤信彦・保科賢司・先崎理之 (2013) 天売島におけるウミスズメの繁殖生態. 日本鳥学会 2013 年大会講演要旨集: 133. 日本鳥学会, 名古屋.
- 長谷部真・福田佳弘・先崎理之・綿貫豊 (2015) 天売島におけるケイマフリ個体数の季節変動と年変化. 日本鳥学会誌 64: 251-255.
- 北海道海鳥センター (2004) 環境省ウミガラス保護増殖事業 2003 年度調査等報告書.
- 北海道地方環境事務所 (2010) 平成 21 年度ウミガラス保護増殖事業報告書.
- 北海道地方環境事務所 (2011) 平成 22 年度国指定天売島鳥獣保護区におけるケイマフリ調査報告書.
- 北海道地方環境事務所 (2012) 平成 23 年度国指定天売島鳥獣保護区におけるケイマフリ調査報告書.
- 北海道地方環境事務所 (2013) 平成 24 年度国指定天売島鳥獣保護区におけるケイマフリ等海鳥調査報告書.
- 北海道地方環境事務所 (2014) 平成 25 年度国指定天売島鳥獣保護区におけるケイマフリ等海鳥調査報告書.
- 北海道地方環境事務所 (2015) 平成 26 年度国指定天売島鳥獣保護区におけるケイマフリ等海鳥調査報告書.
- 北海道地方環境事務所 (2016) 平成 27 年度国指定天売島鳥獣保護区におけるケイマフリ等海鳥調査報告書.
- 北海道地方環境事務所 (2017) 平成 28 年度国指定天売島鳥獣保護区におけるケイマフリ等海鳥調査報告書.
- 北海道地方環境事務所 (2018) 平成 28 年度国指定天売島鳥獣保護区におけるケイマフリ等海鳥調査報告書.
- 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室 (編) (2014) レッドデータブック 2014-日本の絶滅のおそれのある生物- 2 鳥類. 株式会社ぎょうせい, 東京.
- 生物多様性センター (2012) 平成 23 年度モニタリングサイト 1000 海鳥調査報告書 p5-24. 環境省自然環境局生物多様性センター, 富士吉田市.
- 生物多様性センター (2017) 平成 28 年度モニタリングサイト 1000 海鳥調査報告書 p7-12. 環境省自然環境局生物多様性センター, 富士吉田市.
- 黒田長久 (1963) 天売島海鳥調査 (附陸鳥). 山階鳥類研究所研究報告 3: 16-81.
- 村田英二 (1958) ウミスズメ天売島に繁殖す. 鳥 70: 22-26.
- 日本鳥学会 (2012) 日本鳥類目録改訂第 7 版. 日本鳥学会, 三田.
- Senzaki M, Hasebe M, Kataoka Y, Fukuda Y, Nishizawa B, Watanuki Y. (2015) Status of the spectacled guillemot *cepphus carbo* in Japan. Waterbirds 38:184-190.
- Thoresen, A. C. (1984) Breeding Biology and Mid-seasonal social behavior of the sooty guillemot on Teuri Island, Japan. Western Birds 15: 145-159.
- 綿貫豊・青塚松寿・寺沢孝毅 (1986) 天売島における海鳥の繁殖状況. Tori 34: 146-150.
- 綿貫豊・近藤憲久・中川元 (1988) 北海道周辺における海鳥繁殖地の現状. 日本鳥学会誌 37:, 17-32.